

建設ICT導入普及研究会総会(第1回)アンケート 代表意見等と回答

内容	代表意見、要望、質問など	回答
積算基準	普及促進のためには、ICT積算基準(方針)を早期に示して戴きたい。また、標準化にあたって実態に応じた費用計上、歩掛採用を願いたい。	H24中部標準化においては、全国統一の基準・方針等の策定前であることから、当面の措置として標準積算を準用する予定です。
モデル工事	H23年度モデル工事名を公表願いたい。また、地域的な偏りや、機器調達時期を集中しない様に配慮願いたい。	モデル工事名をHPで公表しています。また、選定にあたっては、多角的に検討・総合的に判断しております。地域の偏りについても、引き続き配慮をして参ります。また調達時期については、個別現場の状況によるところでもありますので公開するモデル工事一覧を参照願います。
地方自治体	今後、自治体(県・市町村)への導入を進めて欲しい。	ご指摘の通り、今後の裾野を広げるためには自治体(および地方建設業者)への拡大が必要と考え、現在、現場見学会等への参加要請をしているところです。また、国交省のほか、地方自治体の職員を対象とした「施工技術研修(年2〜3回)」を実施しております。また、中部ブロック発注者協議会でも、取組をおこなっています。
ASP	ASPの効果(効率・コスト)に疑問。メリットがないのであれば、負荷だけが増。事例やアンケート結果などを公表して欲しい。	H22年度施工効率向上プロジェクトにおいて、「ワンデーレスポンス」に関するアンケートを実施しており、ASPの活用により受発注者間のやり取りが効率化したかとの問いに対して、効率化した39%、概ね効率化した42%との良好な結果を得ています。 今後も、ASPがより効果的に活用できるよう試行を行いながら引き続き検討していきます。 平成23年6月6日の本省記者発表において、ASP等の情報共有システムの利用により、ワンデーレスポンスの円滑化など施工効率向上の観点から、直轄土木工事にて平成23年度は約2,500件、平成24年度は約3,500件で試行し、平成25年度から全ての直轄土木工事にて実施する予定としています。 なお、平成25年度からの一般化に向けて、情報共有システム間の機能拡充に向けた検討・開発を行うこととしています。
ASP(検査)	情報共有システムでやりとりした施工データが、検査で使用されていない。	電子検査の適合性や改善点に配慮し、導入を進めていきます。
データ作成	調査ー設計ー施工ー維持間の、3Dデータ作成上の基準・ルールが必要。 電子納品との連携がさらに必要。	現時点では、「道路中心線形データ交換標準に関わる電子納品運用ガイドライン(案)H20.3」が策定されているのみです。 他のプロセスにおいて、どのようなデータを活用することが効果的であるかについて、研究会において、引き続き検討致します。
データ作成	(1)モデル業務(情報化施工用データ作成)をもっと拡大してほしい。 (2)情報化施工用データ作成は、現段階では工事請負者が作成するのが現実的。データ作成が簡便になるように取り組んで戴きたい。	搭載データを「いつ、どこで(どの段階で)、誰が(費用計上)」すれば、現段階で合理的かについて検討中です。 H24年度までに環境整備とルールづくりを実施予定。
技術者育成	見学会を増やし、開催を広く知らせて欲しい。また、中小企業への教育・講習を多くしたり、2Dバックホウに関する説明・講習などを行って戴きたい。	現場見学会と講習会(2Dを含む)について、HPとML(会員向け)で情報提供しておりますので、ご参照下さい。
技術者育成	同時に、発注者の意識改革に注力願いたい。	中部地整職員等を対象とした「施工技術研修」を実施しています。特に監督・検査については、新任研修などを通じて啓蒙に努めているところです。
導入効果の整理	(自社現場での導入是非を検討するため、)導入費用対効果を教えて欲しい。	導入効果等については、モデル工事において検証を進めているところです。 なお導入効果は、施工効率のみではなく、熟練工不足や安全性の向上などにも期待しているところです。
導入効果の整理	(自社現場での導入是非を検討するため、)効果が得られる施工条件を早期に整理して欲しい。 また、効果が得られなかった現場条件や原因を教えて欲しい。	モデル事業検証PTとりまとめで「課題」としてあげたとおり、PTなどを通じて今年度さらに検証を進めてまいります。
土工以外への拡大	土工以外(舗装、橋梁、コンクリート構造物など)への適用を検討することが必要ではないか。	舗装のうち、TS出来形管理技術については、H23下半期を目途に作業中です。
土工以外への拡大 (ICタグ)	ICタグ活用は、ICT活用として加点対象となるのか。	「H23工事総合評価運用ガイドライン」に示すとおり、技術提案としてその活用の優位性が確認されれば、加点対象となります。その他にも、As温度管理、3D-CAD、レーザースキャナーがあります。
建設生産システム	施工に合わせた調査、設計、維持管理への取組、特に維持管理への促進をお願いしたい。	建設生産システム全体への取り組みは今後進めていくところです。また、維持管理についても今後の取り組みの中で、どのような活用が考えられるかについて、検討してまいります。